

1. 東青地区

<地方分権>

- ◆保育所の調理室設置について、国の基準どおりに残ったことは、単なる経済効率からというより、食育、地産地消の観点からもとても重要なことであり、国を支持したい。エネルギー政策については県民の合意形成がまだ一度もない状態の中で進んでいるが、地方分権になった場合、どうなんだろうと思う。
- ◆まず「地方って何だろう？」というのがある。その中でどうシェアするのかということ。地方のことは地方で考える。身近なものを身近なところで判断するという基本線で議論していけば、役人達がどういう看板を掲げようがやっていけるのではないかと。
- ◆今日の話聞いて、「まだこんな議論をやっているの？」と感じた。このままでいくと、市町村合併が終わって、県の枠組みが変わり、道州制なんて自分の生きているうちにこないのでは、というのが率直なところ。いくら県知事が集まっても一国一城の主だからやめたくない。政権が変わってもなかなか変わらない。
- ◆我々民間では考えられないぐらいに改革をするのが遅い、時間がかかるんだな、もっと簡単にできないものか、というのが率直な感想。税源移譲について、地方は人口が少ないから税源が少なくなることが予想されるが、ゆくゆくは地方が自立しなければいけないということからすれば、地方の税源も自分達で稼がなければならない。そうなれば地方もお金が減ってくるのでは、という感じを受けた。今後、こういった会合に出て理解を深めていきたい。
- ◆一般市民としては、平成5年頃の動きを記憶していたが、未だにまだこんなスケジュールなんだと驚いた。国の補助施設に関して、現在、10年経たずに廃校になった小学校の有効活用を市へ働きかけているが、ここは期待できるなと感じた。高齢化社会は逆にみると爺ちゃん婆ちゃんが周りにいっぱいいるわけで、経験と英知の宝庫で面白くてやめられないぐらい。子供たちも一旦それが分かると、また話を聞きに集まってきたり、(高齢者は)手先も器用でいろいろと教えてもらえることもある。地域の小学校を活かしていくということ、何よりも世代間交流の場として活用していきたいと思う。地域主権という意識がないことには分権されたにしてもそれを担っていく責任感が芽生えてこない。まずは私たちが主権者という意識をもって、地方分権に主体的に関与し、地方から前向きに話をもっていきたいものだと感じた。
- ◆ここにある昔の新聞記事に「市町村レベルでは分権に対する認識が低く、話題すら出てこない」とあるが、今でも認識が広がっていないのは、国や県の分権に対する啓蒙・啓発のやり方に問題があり、そこに力を入れていないからだと思う。地方分権がもっと地域住民に、市町村に浸透するように、実が上がるように行政の啓蒙をお願いしたい。先日の新聞で、国の地方分権改革推進計画に対する各都道府県知事の評価が載っていたが、大半が支持していないという内容だった。そうすると、地方の声が届いていない、あるいは知事が評価していない一括法案が今の通常国会で可決された場合、不完全燃焼に近い、議論の議論で終わってしまうような感じがする。
- ◆地方分権は花咲か爺さんに例えて言っている。国が灰を蒔いて花を咲かせる、この灰が種より少し灰になってきたなど。そこから、根から、市民・行政・議員の意識を変えて栄養分が木に登って行って、やっと花が咲くであろうと。それからゴルフに例えて、18ホールのうち1ホールを2~3年かけてやっていると、この先50年、孫の代までコツコツやっってい

なければならぬだろうと考えている。少しずつ進んでいるなという意識である。

- ◆浪岡が青森と合併した時の大きな理由として、分権の受け皿ということであったが、平成5年に分権が叫ばれて以降遅滞として進んでいない。非常に大きな失望を覚えている。一番の大きな原因は、国に本当にやる気があるのかということに尽きると思う。国の予算をみても税収より借金が多い。こういう無様な恰好で分権が進むのかなという思いをしている。まず、国民の人気をとるために歳出を決めて、これを国債で賄う、そもそもこういう図式がいただけない。分権を進めるとすれば国家公務員が地方に流れることにつながる、国家公務員が減って地方公務員が増えると思うが、実際は国家公務員より地方公務員が減っている中で、本当にやる気があるのかと常々思う。こういう会議がどんどん開かれて、地方の声を国へ届けなければと思っている。

<広域連携>

- ◆青函インターブロック交流圏構想について、当初はいろんなことに取り組みかなり進んでいたと思うが、道南（函館）と青森県ということでみた場合、本県の青森市以外の津軽半島などでは認識がすごく薄いのではないかと。熱が冷めてきた感じがある。
- ◆昨年11月に「赤い糸プロジェクト」という成果が1つできた。太宰治生誕100年にちなみ、小説に出てくる「赤い糸」で青森と函館をつなごうということで、記念の像を両市に設置した。準備段階から5年ほど取りかかったが、子供たちも含めて交流が深まった。一昨年前、アートNPOの全国大会があり、八甲田丸を何とかしたいということで写真展などに活用した。函館には摩周丸が係留されているので、両連絡船を活用して住民の交流ができないかと考えている。一アートボランティアとして青函インターブロック交流圏構想の今後に期待したい。
- ◆青函については、新幹線が今やって来る。5年もすれば函館開業となるわけで、函館まで見据えて交流を進めていくのにどうしていくのかということ新たな視点で考えていく必要があるだろうし、単純に海を挟んでという元々の発想を一度明治（維新）のように変えなければならないという時期に来ているのだと思う。

<広域自治体制度>

- ◆その地域の発展はそこに住む住民の考え方とか意識が必要だが、今のことを解消してやるのはなかなか難しい。収入が44兆円から37兆円に減るなら、民間ならボーナスと給料カットだ。政治家も自分の腹を切らないで押し進めてもダメだ。それがダメなら残念ながら独立して生きていくことも手かなと思う。将来のあるべき姿としては道州制がいいと思う。
- ◆人口がどんどん減って30～40万人の市が3つか4つになってしまうと、県は何をすることかという話になる。するともう少し大きな括りがあってもいいんじゃないかという話になるかもしれない。平成の市町村合併の時は道州制もものすごくイメージしやすかったと思うが、今は40市町村となってイメージしにくい面もあると思う。
- ◆経済団体が道州制導入を平成27年度目標としていることを聞いてびっくりした。大企業が中心になって、どういう発想でそう決めたのだろうと。道州制については将来的に必要だと思う。その基準は、地球温暖化がどんどん確実に進んでいる中で、命を守る、日本が生きていくための持続可能な姿として、北海道・北東北は日本中の食料基地にならざるを得ないと

思うから。人類が生き続けられることの指標は何かと見た場合、決してG N Pという指標ばかりではないと思う。生存権みたいな、大自然の中で生きていける安全指標という時代が変わっていくのではないかと思う。道州制に取り組む時はそれが可能ではないかと思う。今からでも県民・市民の目線で、自主的な自立した行政として取り組めることがいっぱいあると思う。今回、幸か不幸か事業仕分けというものが生まれたが、ああいうふうなことも含めて県行政の可視化ができるのでは？県レベルの事業仕分けみたいなことを進める中で、県民の理解を得るものもあると思う。「前例がない」と言わずにどんどん進めていってほしい。青森型発展の持続可能な独自の指標というものをぜひ全国に発信してほしい。

- ◆アンケートで「広域連携が望ましい」という回答が多かったという説明があったが、当然だと思う。農耕民族であり、お互い水を分け合うという性格が表れているのではないか。資料に「官民協働」という言葉がある。平内町では今回高橋竹山生誕100年の実行委員会を立ち上げ、行事をやっていくことにしている。民も議員も行政も、それぞれの立場で働く場所があるだろうなという意識の下で実行委員会を開いている。広域連携の場合も、それぞれの地域性とか経済性といった部分があって初めて「協働」ということになる。ガラガラポンになると喧嘩が起きたりするるので、広域連合というのがあって、その先に道州制を見据えるのかなという感じをもっている。今回の平内町の件も、もう少し拡大して青森市、隣の平内町、そして全県でということで三者協働という形を目指したいと思う。それが住民の意識を高め、広域性につながれば、そして地方分権という意識が住民に芽生えればいいと思う。

2. 西北五地区

<地方分権>

- ◆小泉内閣の三位一体改革で、我が深浦町は交付税が3カ年で9億円減らされた。分権と言いつつ、地方に税源を移譲しないで制度だけ変えても地方が疲弊する。鳩山内閣は分権を「一丁目一番地」と言っているが、なかなかうまくいかない。もう少し地方に対して税源移譲があってもいいのではないか。以前から国と地方の税源は5：5にすべきと言ってきた。自主自立で地域住民が自分達で物事を進め、町へ提言していくためにはどうしてもお金が必要だ。深浦町が町の庁舎とコミュニティセンターを合築した際、コミュニティセンターは国土庁の所管で「渡り廊下でつないで別々につくりなさい」とのことだったが、合築によりトイレを一カ所にするなど効率的につくられた。道路も幅員とかいろんな縛りがあるが、市町村に任せればそれに見合ったものでつくれる。補助金制度を交付金制度に変えていけば自由にやっていけると思う。深浦町で「施設を他の用途に転用したい」と言っても、国が「まかりならん、補助金を返還しなさい」ということになった。補助金の廃止・縮小は、地域住民がまちづくりなどのため有効活用していこうということになればいいとは思いますが、まだまだそこまで至っていないというのが現状であり、もっと自由度が高まればいいと思う。地域住民一人ひとりが声を大きくして、また、県も積極的に行動して欲しい。
- ◆なんと言っても財政が一番のネックになっていると思う。国の借金についてどうしていくんだらうということがあまり論じられていない。三位一体の改革は、まさかこういう形になるとは思っていなかった。稲垣地区でもいろんなものを建ててきたが、ある人は「後で交付税で戻ってくる」と言っていた。行政を担っている者はごく一部の者とその取り巻きであり、無駄なものを造ってきたんだと思う。どう動いていけばいいのか現時点では考えつかないし、見えていないが、できることからやる。一気にやることは不可能だと思う。
- ◆資料が前回と明らかに違って分かりやすくなり、分権が決して夢物語ではなくなってきたんだと感じた。もう使ってしまったお金、建ててしまったものなど、過去の失敗例はあると思うが、未来はまだ決まっていない話なので、これから先のことに對し、県がぶれないで分権のことにもっとリーダーシップを発揮していった方がいい。「県としてこう考えている」などについて説明する機会を、もっと設けていただければと思う。
- ◆第二期分権改革の内容を見ても、結構国へ要望しているんだというのが分かった。保育所の設備などを見ても、そんな簡単には変わらないのが実情なんだと思う。今後、国へ要望して行って少しでも変わればいいと思う。
- ◆財源がどうなるかというのが一番心配だ。前文句はよかったが、合併した地域の方からは「よくない方向だ」という話も聞こえてくる。何をすることもお金が全て。東京が税収を多くあげても地方にもっていかれてた場合にどういう反応をするのかということもある。

<広域連携>

- ◆平成15年に北東北観光立県推進協議会の後期アクションプランを策定した際、後々は道州制になっていくのかなと思っていた。深浦町は、秋田県八峰町、鱒ヶ沢町の3町で「ルート101」という広域観光ルートをつくって取り組んでいるが、広域連携は外部の血が入ってきていいことだと思う。三行の商談会にも毎年参加しているが、大きな役割を果たしていると思う。JR秋田支社の人と話した際に、「新幹線の名称はどうなるの」と聞いてみた。これ

までは「リゾートしらかみ」で能代～五能線（五所川原）～弘前・青森という流れであったが、今回の新幹線開業でイン・アウトが逆になる。観光は6次産業でなければならないので、地場製品のいいものを使いながらやっていきたいと思う。観光では男鹿半島との連携も重要。男鹿半島に行けば映画の題材になったりもしている。

- ◆広域連携を最初に学習した時に、三村知事が話していたことが毎年一つひとつ実現していると感じている。観光客に対しては、自分達が何をしたいかより、相手が何をしてもらいたかが大切だと思う。首都圏の人達の価値観をお客様の目線で考え、それにどう応えるかということが必要ではないか。決して悲観することなく、率先して行動していくべき。
- ◆青函インターブロック交流圏構想については、連絡船をはじめ昔からのつながりをみても、今後益々大切だと思う。深浦は能代が経済圏であり、このことも大切だ。今後、北海道、岩手県、秋田県とのつながりは、いろんな面での交流が深まっていくと思う。
- ◆新幹線開業に向けても、広域連携を前向きにとらえて取り組んでいる。

3. 上十三地区

<地方分権>

- ◆政権交代でようやくスピード感が出ると期待しているが、県がスピードアップに対応できる体制に入っているのか？シミュレーションしておいてはどうかということ。何年も他のところの様子見している。すぐ動けるように準備しておくべき。
- ◆三位一体改革では税源をもらった以上に支出が増えている感じがする。
- ◆中央官僚と言われる人たちは非常に激務だが、市町村に権限が下りてきた時に大丈夫なのか？資料 p 7 の「統一性」に関して、最低の基準をクリアすればいいと思う。資料 p 7 の「専門性」に関して、地方で対応できるか懸念がある。国が認可したものについて、自由に対応できるようになればいいと思うが本当にできるのか。例えば、デイケア・デイサービスは 15 時ぐらいで終わるが、その後で子供たちに来てもらえないものかと考えている。
- ◆分権は明治以来の動きだと受け止めている。北海道、東北は必ずまとまると思う。函館に道・東北の事務所をおくべき。青森県は政治的に遅れをとっている。部外者である我々がどれぐらい関わっていいのか判断に迷う。
- ◆いろんな面で地方の役割が大きくなってくると察するが、その時に地方が人材的に大丈夫なのか気になる。若者や優秀な人材が県内に残りたくても残れないという現状が心配だ。一般の人たちがどういう面に関わった方がいいのか、いくのかについて、漠然と不安を抱えている。
- ◆資料の地方分権改革推進計画を見ても、県が財源を確保できるのかと思う。今後、一括交付金がどういう形でくるか分からないが、十分な財源がくるのか不安であり、危機感をもっている。
- ◆全ては人口が基本だと思う。六ヶ所村も開発村であれば少しは人口が増えるかなと思っていたが、若干減少傾向になっている。
- ◆これまで中央集権で全国隈無く同じことをやってきたが、今回初めて、国の基準を変えるんだという必要性を感じたのだと思う。地方ができることを地方がやる、地方が身の丈に合ったことをやる。この分権の方向性は戻らないと思う。分権のデメリットも必ずあるはずであり、これらをどのように克服するのかということをも有識者から意見をもらうなどして早く進めていくべき。分権にはいろんな問題があると思う。例えば格差、職員の質、さらに政治家の質の向上も課題になる。
- ◆まだまだ国の予算が見えないところもある。各機関の廃止などももっと明確に示してもらわないといけない。国会議員の数も自ら削減するなどしていくべき。
- ◆「北のくに健康づくり」（資料 p 9）に関わっているが、県が事業を市町村に下ろしてきて自分達でやってくださいという流れになっていると感じている。ただ、自分達のこと自分達でやりなさいよと、資料づくりから何までやるとなれば、私達外部の団体はそこまでできないよね、と感じている。若い人達を県内に残していく、働く場所がもてる施策を講じてほしい。
- ◆最近、「陳情」という言葉が変わったのか変わらないのか、と言われているが、この言葉がまだ使われていること自体、危惧している。分権がなされた時はこの言葉が死語になっているべきだと感じている。新幹線開業で東京が近くなったのか、青森が近くなったのかという意識で違ってくる。駅名も「七戸十和田」と決まったが、ここに至るまで、町と市の境界意識、

住民のエゴが見られた。こうしたエゴがなくならない限り分権も進まない。

- ◆組織として本当に分権されていいのか？地方自治体でいろんな問題があったことを踏まえれば、まだ分権はいいのかなと思う。改革を国に先がけてやっていく必要がある。我々も行政に参画するチャンスであり、距離が短くなると思う。今までどのような方向で議論がなされ、どういうことが決められたのかがよく見えない。
- ◆分権とは、国が地方にお金をやり、考えてやってもらっていいということ、地方もそれを受けて自分達が住みやすいまちをつくっていくことだと思っていた。国に頼らなくても地方ができることはいっぱいある。これから広域的にもやっていくべき。

<広域連携>

- ◆「北東北連携ネットワーク」から誘いを受けるが、我々民間が自費で参加するような余裕はない。
- ◆地銀3行の連携と言っても、個々の規模が分からず、吸収されたりしないかという懸念もある。医学部の問題も連携で医師不足などが解消できるのかよく分からない。

<広域自治体制度>

- ◆道州制にはあと半世紀もかかることではないかと思っている。いろんな想定があった中で、希望をもって議論してほしいと思う。
- ◆道州制は「国民的合意」と言っても無理。経団連のように期限を決めてやるしかないと思う。連邦制は多分、日本にはなじまないが、このいい点をとる、連邦制に近い道州制がいいのではないか。国に任せるのではなく、県が主導してやるべき。
- ◆道州制はどんな枠組ができて、最終的には自分達が経営していかなければならないわけで、知識・認識をもち、勉強だけは怠りなくしてほしいと思う。

4. 三八地区

<地方分権>

- ◆基本的には分権に賛成。何で国にこう言われなければならないのかとか、全く実情に合っていないことを仕事の面でも感じている。ただし、私達住民の視線でみたデメリットはきちんと把握する必要があると思う。
- ◆毎回出席しているが、年1回の開催でしかも意見交換の時間があまりない。HPに掲載することのだが、それだけなのか。やはり活かさなければならぬ。前回大勢参加したが、今回は少ない。今後どう対処するのか？分権を進めていく上でマイナス面もあるので、できるだけそういったことも載せていただきたい。前回と資料の内容がほとんど同じだ。ぜひアンケートなども実施して、できるだけ広く県民から意見を集めるなどしてほしい。そういった中で青森県が何をすべきかといったことを選び、県に旗振り役をしていただくという流れにしていくべき。
- ◆県又は市町村にどれだけメリットがあるのかなと思って参加した。南部町が3町村で合併したが、しないと交付税が減らされるといった話もあった。分権がどれだけ効果があるのか見極めていきたいので、もう少しこういう会合を開いてほしいと思う。
- ◆基本的に分権は国から出てきたもので、国が言うことは信用できないと思っている。権限を与えることは地方にとっていいことだが、権限と財源がどれだけ整備されるのかということを中心に押さえた上で議論することが大切だ。本当にきちんと分権がなされれば画期的なものになると思う。国から県へ、県から市町村へ権限が移譲されても、市町村で対応できないというのも結構ある。分権は国から県への移譲、県から市町村への移譲という流れがあり、そのためには人もお金もかかるし、市町村が担うことができるのかという国の投げかけもある。ここの部分を市町村がきちんととらえているのかということが大切だ。
- ◆分権には個人的に興味があり、住民の目線で考えていきたいと思い、参加した。
- ◆県民局が同席していないが、我々の見えるところで県民局も動いてもらわないといけぬ。分権は、基本的にはお金の問題であり、一番最初にくるべきもの。管理する仕掛けが変わっても中身が変わらなければ同じこと。薬事法の改正で国と協議してきたが、国の役人が自らの権限を手放すのはなかなか考えられない。もう少し県も、職員のやっていることを自ら削ろうというところが見えてこなければならぬと感じる。
- ◆資料を見ると非常に分かりやすく作っていると感じるが、非常に歩みが遅い、本当にやる気があるのかなと、一市民として感じている。
- ◆我々から意見を受けてどの程度それを反映するのか？この意見交換会をどの程度の重みで考えているのか？実効性がないのであれば私達も意欲がなくなる、失望する。青森市で開催しているシンポジウムなども、各地域で平等に開催してほしい。市民に関心が広がるための方法を考えていただきたい。住民の多くが同意することが重要。マスコミや広報媒体を積極的に活用すべき。全国ではしっかりと進めているところがある。住民、職員も含めて人材が大切だと思う。
- ◆町内会の活動を通して、分権の議論はとても役に立っている。引き続きやってほしい。

<広域連携、広域自治体制度>

- ◆八戸だとドクターヘリが運航されているが、そういった緊急医療などは県境を越えてもっと進めるべき。今の八戸は暫定であり、県の真ん中という考えで正式には県病に決まった。県単位でやっていいことと、県境を越えてやっていいことがあると思う。ケースバイケースであり、いい点と悪い点をきちんと整理してやるべき。
- ◆道州制とか連邦制は明治のような大きな改革がなければできないと思う。これから北海道と北東北三県は人的な交流を進めて行ってほしい。ドクターヘリ導入の時も、県病へもっていかれないための戦略として、八戸は岩手県北、日本海側は秋田県北と連携していくべきという考えだった。連邦制とかは考えない方がいい。
- ◆広域連携も非常に賛成というか当たり前の話だと思う。八戸市内で農業と林業をやっているが、最近、木質バイオマスが注目されている。ペレットストーブへの助成制度があるが、あまりかけ離れていなければ県境を越えて取り組んでもいいと思う。広域連携により、県もうまく民間を巻き込み、力をつけて行ってほしい。目標とすべき国の姿がきちんと出た時、それが私達にとっていいものかということがビジョンとして非常に大切だ。特定の圧力がかかり、目先のことにとらわれて長期のビジョンができないといったことになれば困る。その辺のウォッチングをきちんとできるかということが大事。こういう問題があってはダメなので皆さんも協力してください、というスタンスが大切だ。

5. 中南地区

<地方分権>

- ◆市町村合併などを経てこれから分権が進んでいくためには、その地域に対する説明責任が必要になってくると思う。財源をどこから補てんするかとなればやはり地元から。お金の集め方を工夫する。自分達がここの地域で生きていかなければならないわけで、納めるべきは納め、それを有意義に使っていくことが大切。
- ◆内容的にはいいことばかりのようだが、資料p 7「懸念は解消できる」の部分にある統一性の確保、一定の基準を設ける、この辺がまた足かせになるのではと思う。一方では国の一定の基準・ハードルが必要なこともあるので、その辺の国と地方の役割分担の比率、どの程度が国に残ってどの程度が地方に移るのが明らかになるといい。スピーディーにやっていただけたらと思う。
- ◆日頃こういった議論の場に出る機会がなく非常に勉強不足。帰ったら職員に少しでも浸透させたいと思う。資料にあるデメリットはできるだけ詳細を紹介してもらいたい。地方の自主性、責任も伴うが、つけが回ってくるのは地方自治体であり、住民。今回の参加者はもっと多いものだったと思った。ちょっとさびしい感じがした。もっと住民との意見交換の場が必要。もう少し市町村単位に下ろして、こちらから募らなくても意見を吸収する場が必要だと思う。
- ◆分権は自然な流れなのかなと思う。去年、弘前市の下水道事業について、現地を見たら県と市の施設が隣接し合っていて「どうなっているんだろう」と唖然とした。これから分権がどこまで進むか分からないが、やはり今の格差を引っ張っていくのかなという思い、引き続き同じようなことが起こっていくのかなと、いろいろ考えるところがある。自立性、自主性は突き詰めれば自己責任ということになり、この辺をどう折り合いつけていくのかなと思っている。道路の問題一つみても、国と地方が綱引きしている。総論はいいが、各論はどうするのか、その辺がまだまだ見えていないというもどかしさを感じている。
- ◆前々回も参加したが、少しずつ概略はつかめてきたと感じている。一つの事業を47都道府県で分けてやっていくとすれば、総体でコストが増えていくのではないか。それが数多くなれば、ある部分は効率が悪くなるのではないか。税収面でも都市部と地方での格差などが心配される。
- ◆分権の理念や思想がどの辺になるのかなと思っている。今までの流れをみると、国がいっぱいお金をもって公共事業をやれた。地方の個性ある事業に対しては、「後々交付税で補てんするから思い切ってやりなさいよ」と言われて展開してきた。しかし、交付税で補てんされず、赤字を抱えてきたのが地方財政の現状だ。分権も権限移譲など十分に説明されていない。移譲を受けた時に「全国一律レベルでやれますよ」という理念をどれだけ言えるのか疑問。現実はどうではないのではないか。分権の流れとしてはおそらくそうなるのだと思う。市町村合併では、有利な金の使い方という話があって進んできた。あとはNPO、住民など地域の個性ある活動でやっていくことが大切であり、それらをどういう吸い上げをして、この人達の活動を支えていくのか。地域主体の行政にしていける、財政にしていけるという説明が必要だと思うし、その時に青森県は例えば「環境ではこう進めていくよ」といったものを示すことが必要だ。
- ◆どういう権限をもってくるのかということはまだまだ県民の中で考えていく必要があると思う。

<広域連携>

- ◆弘前の人達も広域的な連携の大切さがようやく分かってきた。住民と関わっていくという動きもようやく出てきている。今後は、一組織だけではなく、どうしたら連携をして稼いでいけるのかという視点が大切だ。自分達がどういうふうに行けるか、協力しながらやっていければと思う。
- ◆A A I ネットに取り組んだ時は、非常に難儀した。三県は結構県民が重なっている。一番の基礎は青森県民が岩手県、秋田県に結構いるので、何かサービスを提供できないかという考えだった。商談会についてもいろいろ研究しており、メール便の共同運行ができないかなどについて検討している。理由として、県民の利便性と自行の効率化がある。外に出ていない内部のことで一緒にやっていることがある。一緒にやろうとすれば、通帳ひとつとっても個々のカルチャーが異なっているという面もあるが、それを乗り越えてやっていく価値はあると思っている。

<広域自治体制度>

- ◆4年ぐらい前に青年会議所で道州制について勉強し、自給自立できるのかを検証してみた。本県は食料の面では自給できる（米120%、野菜150%）が、観光面など他の分野もみると道州制をやってしまえばさらに格差が広がってしまうという結果になった。
- ◆最終的に自立できるという時に「何が実現できるかということを考えろ」と言われても難しい。果たして財源も働く場もないとすれば、青森県の特質を備えたビジョンが必要。その場合、どこと一緒にいっていいのかを提示することなども考えていくべきであり、オブラートに包まず今後の可能性をみんなで思い切って議論していくということを希望する。

6. 下北地区

<地方分権>

- ◆毎日日々の生活に追われているが、だからといって政治に無関心であってはならない。私達の考えをどう反映させるのか、せつかくこのような機会が与えられているので、伝えていかなければ私達の生活も変わっていかないと。国も地方も自主財源以上の予算を組むのは問題がある。こういう体質が変わらない限りはスムーズに行えないのではないか。
- ◆市の職員も、関わっていない人は全く関わっていない。一番身近な意見の吸い上げの場がないような気がする。市民が興味をもつことが第一で、そうしないと意識が変わらない。県も何か仕事を取り組むにしても、そこに職員が出てくるのが前提。それにより風通しがよくなる。資料を見ても何が何だかさっぱり分からない。皆さんに参加をいかにお知らせしたくて、「どうか理解してください、みんなで作り上げていきましょう」というのが一つも見えない。話を聞いて変わったことなどを共有し、足並みをそろえていくことが大切だ。
- ◆今回初めての参加。分権、地方自治に関する知見は全くない。分権は時代の流れとしてその方向に進むと思う。現政権が地方分権と言っておきながら大きな政府をつくっていくように感じられ、方向性がよく見えない。国の役所を小さくする、地方自治体は大きくなる、そこにムダはないのかなと素朴な疑問を感じる。基本的な方向として、地方の個性は尊重しなければならないと思うが、全国一律、基本的なところは統一されなければならない。やってみてうまくいかなかった時に元に戻す、あるいは違うことをやってみるといったことも考えておく必要がある。
- ◆この会議は自分にとっては資料を見ても難しく、かなり荷が重い、何か一つでも学ぶことがあれば、また、夢を持った人が一人でも多くなるような地域にしたいと思い、参加している。
- ◆分権は行政とか国には必要だろう、じゃあ私らにとってはどうか、と見れば実はいっぱいある。例えば幼保一元化してほしい。そういったものを速やかに進めるための分権であればいいが、時間がかかっている。資料ももっと分かりやすく、「これをすればこうなります」と掘り下げて作っていただきたい。「個性豊かで活力に満ちた地域社会」という部分も分かりやすく示してほしい。
- ◆幼保一元化はかなり以前から議論され、省庁の障壁と言われた。かろうじて認定こども園が都市部でやられているが、地方には合わない。
- ◆分権という言葉そのものは聞いているが、実際どんなものか分からないので勉強のつもりで参加した。川内町にある海水浴場が文科省の所管で、販売施設はつくってはいけないと言われたが、日にち限定でプレハブでつくっていいということになった。やや緩和されて現在は物置としてつくったものを使っている。地域の実情に合わせて法律を変えていくことができるのであれば、分権はいいことだと思う。権限を与えるが、自分達で金を準備しなさいよ、となれば困る。分権もいいが、交付税もきちんと地方へ回してほしい。
- ◆分権についてもっと勉強したいと考えているので声を掛けていただきたい。
- ◆廃校になった小学校を使えないものかと話したが、国から補助金をもらっていたので市ではどうにもならないと言われた。分権になれば市が独自に使えるのかなと思ひ、勉強しようと思っただけ来た。

<広域連携、広域自治体制度>

- ◆いかなる組織になろうが、主権が在民というのは絶対。それが反映される行政になることを望む。我々もこうした場を利用して発信していきたい。